

筑波大学新聞

第391号

編集責任
筑波大学新聞
編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699

E-mail
shinbun@
un.tsukuba.ac.jp

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

27年度から留学生授業料値上げ 教育・生活環境の充実図る



留学生値上げの経緯について説明する永田川畑学長(昨年12月18日、本部棟で) = 川畑悠成撮影

筑波大は昨年12月、外国人留学生の授業料を2027年度から値上げすると発表した。これまで日本人学生と留学生で授業料は同額だった。値上げ額は正規生で年間7万3000円、非正規生で3万6000円。追加徴収分は留学生の教育・生活環境の充実に必要な経費に充てる。また、物価動向などに応じ、適宜見直す可能性があるとしている。

また、26年度までに入学した留学生の授業料も、現在の課程に在籍中は変更されない。国大の授業料は文部科学省令で標準額が定められており、大学ごとにその1.2倍を上限として金額を決定される。ただし、留学生の授業料については、24年3月の省令改正により、この上限が撤廃された。東北大は昨年11月に27年度からの値上げを発表している。

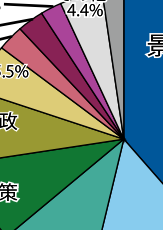
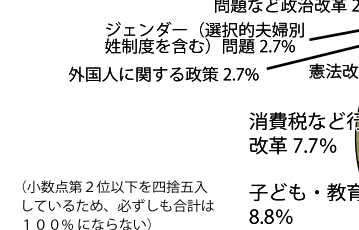
筑波大の留学生数は2540人(25年5月時点)で、全学生数の13%。40年度までに学士課程における留学生の割合を2割まで拡大する目標を掲げている。定例記者会見によれば、留学生に選ばれる大学となるためには、教育・生活支援を含む留学生の学習環境の拡充が必要で、1年前から検討を重ねてきたという。

全代会 宿舎利用料値上げ1年延期要請 大学と意見交換会 3月開始

筑波大が来年度からの宿舎利用料値上げを決めたことを受け、全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議(全代会)は1月7日の本会議で値上げ1年延期を求め、千葉親文副学長(学生担当)に提出した。また、全代会によると、大学と協議した結果、学生担当副学長と全代会が宿舎問題に限らず学生生活全般について話し合う意見交換会を今年3月から定期的に開催する方向が固まったという。

全代会は値上げ発表翌日の昨年12月11日から同25日にかけて筑波大生にオンラインアンケートを実施(65%)、「値上げ幅の縮小」(50%)、「学生との合意形成」(36%)、「値上げの延期」(34%)などが上位を占めた。さらに、値上げ理由に「宿舎に居住したくない」と回答した学生が33%を占め、「継続して居住する」は21%にとどまった。

全代会の吉川権議長(工シス3年)は「宿舎利用料の値上げのみならず、学生が直面している状況を継続的に大学側へ伝えていきたい」と話す。(山本ひより比較化学類1年、10、11面に関連記事、4面に記者の声)



大学生と政治

茨城6区は新人の稲葉英樹候補(日本共産党)、現職の青山大入候補(無所属)が3人、白票が1人だった。

選出調査 筑波大生182人が回答 景気・物価高対策重視

本紙は2月8日投票の第51回衆議院議員総選挙で、出口調査を市内7投票所で行った。筑波大生182人が有効回答を得た。つくば市が含まれる茨城6区は国光文乃候補(自由民主党)に投票した学生が80人(44%)で最も多かった。比例代表北関東ブロックでは自民に投票した学生が61人(33.5%)で最多となった。

筑波大生への出口調査結果

景気・物価高対策など経済政策 39%
外交・安全保障 14.8%
消費税率など行財政改革 7.7%
子ども・教育政策 8.8%
社会保障政策 9.9%
憲法改正 5.5%
外国人に関する政策 2.7%
ジェンダー(選択的夫婦別姓制度を含む)問題 2.7%
政治とカネの問題など政治改革 2.2%
その他 4.4%
無回答 2.2%

共通テスト実施 初のオンライン出願

大学入学共通テストが1月17、18日に行われた。新しい学習指導要領に基づく新課程の2年目の試験で、今年是全国で前年より1066人増の49万6237人が出願。初回は地理歴史・公民、国語、外国語、2日目は理科、数学、情報の試験が実施された。筑波大も会場となり、受験者が最も多かった外国語で、5675人(登録者数6056人)が受験した。今回からオンライン出願に変更されたことに伴い、受験生は受験票を自身で印刷して持参する必要がある。また、受験票を忘れた

理由では、「公約を支持」が60人(33.0%)で最も多く、「支持政党だから」が44人(24.2%)、「候補者の印象が良いから」が40人(22.0%)と続いた。比例代表の投票理由は、自民に次いで国民民主党が38人(20.9%)、チームみらいが32人(17.6%)、中道改革連合、日本維新の会、共産がそれぞれ11人(6%)だった。

高市早苗首相が衆議院の解散・総選挙に踏み切った時期については、「適切だ」「どうかな」と言はば適切だが合わせて75人(41.2%)、「適切でない」「どちらかと言えば適切でない」が合わせて72人(39.6%)だった。調査は2月8日午前10時〜午後3時、筑波大周辺の天王台・天久保地区が対象の市立吾妻中学校投票所(つくば市天久保)と春日地区が対象の市立春日学園義務教育学校投票所(同市春日)で実施した。

筑波雑学

若い頃から言葉に親しむのが好きだった。小学生の頃は難読漢字の学習に没頭し、見たことのない漢字に出会ううれしくなった。中学生で英語の勉強を始めてからは、日本語と文法が異なることが面白く、英作文を書き始めることが面白く、言葉に親しむ中で、筑波大で言語学を学ぶことを決めた。言語学は実社会で使われている言語について、その構造や表現を科学的に分析するもので、「正しい日本語」が何かを特定する学問ではない。だが、大学新聞の学生記者として記事を書く際には、用字用語規則に従い、「正しい日本語」を書く必要がある。表記が乱れると、読者の混乱を招いてしまうことがあるから、言

語学の授業で、若者の言葉遣いの誤りを指摘する校閲記者のウェブサイトに話題になった際は、身につきまされた。言語学徒としては、研究対象を「間違え」と「蹴された」一方で、記者としては「正しい日本語」をよりどころに記事を書くという現実を突きつけられたから、言語学は、ら抜き言葉のような、「乱れ」と見なされる言葉を客観的に見つめる視点を、学生記者としての経験は言葉の重みや責任を認識する機会を与えてくれた。校閲作業中に、「和歌を讀む」という表現を見つけて「詠む」に修正した経験もある。漢字一文字の違っても、意味が大きく変わってしまう。言語学を学ぶ学生記者として、記述と規範という双方の視点をこれからも大切にしていきたい。

附属病院に「ファシリテッドッグ」導入 子供に寄り添い心のケア



西尾副学長と触れ合うファシリテッドッグの「ミコ」
(1月29日、本部棟で)

筑波大附属病院は1月29日、闘病する子供たちを元気づける「ファシリテッドッグ」を来月4月から小児科病棟に導入すると発表した。国立大病院での導入は全国で初めて。

(結城希二国際総合学類3年、写真も)

ファシリテッドッグは病 患者に寄り添い、不安を和らげ、検査やリハビリに同行するなどして、これまでの医療では不十分だった心のケアに携わる。

同日の記者会見ではファシリテッドッグでフアラドルレトリバーの「ミコ」(3歳メス)が登場し、西尾副学長(広報担当)の膝の上に乗って触れ合うなどのデモンストレーションを行った。

平松祐司院長は「ファシリテッドッグは言葉では言い表せない不思議な力を持っている。子供たちの心の支えとなり、生命力を引き出ししてほしい」と話す。

この事業はファシリテッドッグの育成や普及に取り組むNPO法人「シャイ

ン・オン・キッズ」(東京都中央区)と協働しており、同NPOから看護師資格を持ったハンドラーとファシリテッドッグが派遣される。

同病院は初期費用や年間1240万円の活動費などを賄うため、今年3月からクラウドファンディングを実施する。目標は2200万円。この他、関彰商事(本社・筑西市)つくば市)からも支援を受けることになっている。

誰もが安心してできる場所 「本と喫茶サッフォー」

松見公園近く

つくば市の松見公園に近い路地裏を進むと、猫が目印の看板が迎えてくれる。2階建ての集合ビル1階奥にあるブックカフェ「本と喫茶サッフォー」(同市天久保)だ。フェミニズムやジェンダーを中心とした約2000冊が並び、大型書店でも置いていない本に出会える評判だ。性的少数者や障害者も含め、誰もが安心して過ごせる「セーフスペース」でもある。店主の山田亜紀子さん(52)は「さまざまな事情で孤立しがちな人にとっての居場所になれば」と話す。

(川上真生二社会学類4年、写真も、12面に関連写真)



レインボーフラッグが飾られた店内で自身が編集した雑誌を持つ山田さん(1月25日、つくば市天久保)

その後、出版社「現代書館」(本社・東京都千代田区)の編集者となり「フェミニズム雑誌」シモーヌ」の創刊などにも携わった。高校生の時にフランスの映画監督、アニエス・ヴァルダの存在を知り、フェミニズムに関心を持った。彼女の作品のひとつ「歌う女」歌わない女」はフランスの17年頃から「#MeToo運動」などの広がりにより、フェミニズムへの関心が高まった。一方で、SNS(ネット交流サービス)では性的少数者や障害者への差別的な書き込みも相次ぎ、「マイノリティがつかえる場所が必要だ」と考えるようになった。さらにつくばの大形書店では、フェミニズム関連の書籍を見つけないこともあり、地元で書店を開くと決意した。

近隣には障害者が運営する自立生活センターや、障害者の就労支援事業所もあり、車椅子の客もよく来店する。店内はつくば市の合理的配慮の補助金を活用してバリアフリー化され、障害者福祉分野の書籍も充実している。フェミニズムを差別的な観点から考えない、差別はなかならない」と思うからだ。

筑波大生との交流もある。一般学生団体「SOD A」は昨年の筑波大学学園祭(雙峰祭)で、セルフケアやジェンダーの観点からカバンの持ち物について考察した展示を企画。合わせて小冊子「わたしのカバ」はなぜ重い?」を製作し、展示スペースで販売した。雙峰祭終了後、サッフォーの店頭でウェブショップで一般発売したところ、初版100部は約1カ月半で完売。反響を受けて120部を重版した。

同団体代表の坂井和心さん(社会学3年)は「サッフォーさんのSNSフォロワーを中心に広がり、幅広い人たちの手に取ってもらえた。店内の棚を眺めれば眺めるほど欲しい本が見つかる」と話す。

山田さんは「なんとなく生きづらいと感じている人にぜひサッフォーを利用してほしい。生きづらさの原因が社会構造や制度にあると気づくだけで少し楽になるかもしれない。気軽に立ち寄り、本から生き延びる知恵を学んでほしい」と話した。

「資産運用セミナー」開催 筑波大の取り組み他大に紹介

事業・ファイナンス局は1月23日、全国の国立大の資産運用担当職員を対象とした「資産運用セミナー」を東京キャンパス(東京都文京区)で開催した。筑波大は2024年9月、政府がまとめた機関投資家向けの行動規範「アセットオーナー・プリンシプル(AOP)」を国立大で初めて受け入れた。セミナーではAOPを巡る筑波大の取り組みなどについて野手弘一副学長(資産運用担当)が講演し、参加者と意見交換した。



筑波大の取り組みについて講演する野手副学長(1月23日、東京キャンパスで) =川畑悠成撮影

セミナーには国立大をはじめ文部科学省や内閣官房、金融庁など27機関から56人が参加した。AOPは24年8月に、政府の内閣官房が策定した。アセットオーナー(公的年金、共済組合、企業年金、保険会社、大学ファンド・資産運用を行う学校法人など)が、状況に応じて適切な運用成果を得られるようにするための共通原則だ。法的拘束力はないものの、

運用目的に合った運用目標や運用方針の策定、その実現に必要な体制整備など5つの原則が盛り込まれた。セミナーでは、内閣官房の中村香織企画官がAOPの枠組みやアセットオーナーの役割などを説明し、国立大でのAOP受け入れ拡大を訴えた。

続いて、野手副学長が筑波大の事例を交えながら、国立大法人の資産運用とAOPの活用について講演した。野手副学長は「大学においては長期的な視点に立った責任ある資産運用が求められる」と指摘、AOPは、資産運用の設計図にならと強調した。

筑波大は同年4月に事業・ファイナンス局を新設し、資産の運用収入の増加と資産運用ができる人材育成を掲げた。国立大全体の

資産運用の高度化にも貢献するとしており、今回のセミナーもその一環として開かれた。今後、他大学の担当者研修生として受け入れる準備を進めているという。永田恭介学長は開会のあ

ラグビー部 ジャージで「デイベア」

就労支援所と連携

筑波大ラグビー部は、使わなくなった歴代公式ジャージをアップサイクルして「デイベア」を製作する「つくばア・Future Blue」プロジェクトに取り組んでいる。筑波大が昨年12月に出場した全日本ラグビー選手権準々決勝の会場となった秩父宮ラグビー場(東京都港区)のフリース10体を取り扱ったところ、数分で完売した。(惣田聖二心理学類2年)



つくべアを手を持ち笑顔を見せる西村さん(左)と田島さん(1月23日、中央図書館で) =小川優羽撮影

いさつで、「国立大では持続的な財政基盤の確立が喫緊の課題だ。財源の多様化と資産運用の高度化が必要で、今回のセミナーが全国の国立大の一助になることを期待している」と述べた。

「つくばア・Future Blue」プロジェクトは、ラグビー部の選手権準々決勝の会場となった秩父宮ラグビー場(東京都港区)のフリース10体を取り扱ったところ、数分で完売した。(惣田聖二心理学類2年)

「つくべア」は、座った状態で高さ約22センチ。ジャージ一枚につき1体作成できるという、筑波大のイメージカラーである「ブルー」を取り扱った。チャーターブルーが鮮やかだ。全国大学ラグビー選手権のフリースでは1体4500円(税込)で取り扱った。ラグビー部は競技普及と地域交流を目的に、2020年からつくば市内の小中学校や保育園でラグビーボールと触れ合ってもらうイベントなどを企画してきた。今回のプロジェクトは、そうした地域とのつながりを発展させるもので、来季も「CWらぼ」を取り扱う計画だ。

同事業所にジャージを届けた田島汰一さん(社会学2年)は「ラグビー人口は年々減少している。ラグビー部が地域を盛り上げていく担い手になるためにも、CWらぼ、つくばの方とつながれたことは大きい」と話す。

「つくべア」の広報を担当したラグビー部マネージャーの西村修さん(比支1年)は「ラグビー部は地域と運動しながら日本一を目指している。ジャージの枚数に限りがあり、つくべアを作り続けることができないが、新たな企画を考えたい」と話した。

広告欄

掲載のお問い合わせは

shinbun@un.tsukuba.ac.jp

までお願いします。

退職教員4人に聞く

教育者・研究者人生の軌跡

学際性の高い教育研究に取り組む筑波大。教員も多彩な人材がそろっている。定年を迎えた4人の教授に、これまでの軌跡や筑波大生へのメッセージを聞いた。(鈴木華、松尾有姫、望月柚那、比較文化学類、吉田花、日本語・日本文化学類、川上真生、社会学類、結城希、国際総合学類、壬生泰太、地球学類、川畑悠成、知識情報・図書館学類、大成夏生、第1類)

若者の

生きづらさを分析

山口県玖珂町(現岩国市)出身。中学時代に陸上800mの県大会で2年連続優勝し、強豪高校からスポンサーの誘いもあったが、「やりたいことはこれではない」と地元岩国高に進学した。その後、地元ではない世界で社会問題に取り組みたい」と筑波大に入学した。当時、社会学類に進学した。当時、生きた若者たち(岩波書店)など一般向けの著書も多い。それらは、若者自身が現代社会を客観的に理解し、自らの置かれている状況を知ることで現状を打開する手がかりにもなっている。



土井隆義 教授(人社系)

同輩の初年次チューター教育導入を主導した。本紙との関わりも深い。教員で構成される筑波大学新聞編集委員会の創設を大学側に働きかけ、18年2月の設置後は委員長を4年間務めた。同委員会は大学新聞の中立性を確保する存在だ。「大学新聞の発行費は大学が出しているが、公正な報道でジャーナリズムを守ることは大学にとっても誇りとなる。筑波大の約35年間で最も印象に残る出来事だった」と語る。「好きなことが仕事になっているので、体力と知力がある限り研究と教育は続けたい」といい、定年後は関西外国語大で教員を続ける。「筑波大生にはレイチェル・カーソンの『sense of wonder』という言葉を送りたい。元来は自然に対する驚嘆を指す言葉だ

医療データ分析で患者を支える

患者のデータを分析し、治療が必要な人に確かに届いているかを評価するヘルスサイバースリサーチ分野の第一線で研究してきた。小学4年の時に生後間もない妹が病院で知的障害と診断された。途方に暮れる母に地域の保健師が障害児の親の集まりや発達支援機関を紹介する姿を見て、患者を救うのは医療だけではないと知った。「医療はその後の人々の生活を



田宮菜奈子 教授(医学医療系)

生活につながるなければならぬ」という思いで、筑波大医学専門学群(当時)に入学。社会医学が学べるのが大きな魅力だった。在学中に、在宅医療を日本で最初に始めた医師の下で実習し、患者が医療後に地域でどう過ごしているかを大切にすることを学んだ。

卒業後は東京大学大学院で学びながら研修医として働き、脳梗塞で半身が麻痺した患者を担当した。リハビリを終えて退院したはずが、家族の介護が不安で、自宅に戻らずに転院していったことを知り、医療後の生活を医師が把握できない現状を痛感した。そして、大学院で、住診する医師の存在が地域医療を支えることをデータ解析から明らかにし、博士号を取得した。だが、「前例のない研究で、研究者としてやっていく

AS日本初メダリスト

筑波大大学院在学中だった1984年のロサンゼルス五輪シンクロナイズドスイミング(現アーティスティックスイミング、AS)のソロ、デュエットで銅メダルを獲得。引退後は体育科学分野でコーチングやASの研究を進める一方、2016年のリオ五輪では日本水泳連盟のシンクロ委員長として強化にあたり、チームとデュエットでの銅メダル獲得を支えた。



本間三和子 教授(体育系)

「父親との仲が悪く、実家のある大阪市から遠い大学に進学したかった」からと笑う。だが、コーチや母に引き留められ、ASを続けることになった。ところが、筑波大にはASチームがなく、練習のために毎週大阪に戻るために、往復の新幹線の中でも振り付けの確認や大学の勉強を怠らなかつた。4年間で体が疲弊したこともあり、大学卒業後は引退し、筑波大大学院で体育

科学やコーチングについて学ぼうと考えた。だが、大学院合格後に、現役継続を決定した。1年半後はロサンゼルス五輪が控えており、「当時の五輪種目はソロとデュエットだけで、出場するには日本のトップを守り続ける必要があった。その自信はなかったが、あと2年頑張れば、価値ある経験になると思った」と語る。結果はソロ、デュエットとも3位で、シンクロが初めて正式種目になった五輪でのメダリストに輝いた。

専門は社会学で、都市機能を中心部に集約するコンパクトシティという考え方をいち早く提唱した。高度経済成長のさなか、地元・神戸市の海が都市開発で次々と埋め立てられていく姿を見て育った。「このままでは将来は良くなるのか」という疑問を持ち、都市の持続可能性について学ばないといけない。だが、持続可能性に配慮した都市計画分野は競争相手がおらず、今となっては博士課程に進学して良かったと感じる。

再任後は人口減少時代に対応した街づくりの研究に力を入れた。土地利用を適正化する。無駄な投資を行わないようにすべきだと訴え、国土交通省の社会資本整備審議会の分科会長などとしても活躍。コンパクトシティ構想を自治体が策定することを盛り込んだ都市再生特別措置法の改正にも貢献した。また、各県や新潟市や静岡市、松江市など自治体の

日本にメダル取り戻す

「父親との仲が悪く、実家のある大阪市から遠い大学に進学したかった」からと笑う。だが、コーチや母に引き留められ、ASを続けることになった。ところが、筑波大にはASチームがなく、練習のために毎週大阪に戻るために、往復の新幹線の中でも振り付けの確認や大学の勉強を怠らなかつた。4年間で体が疲弊したこともあり、大学卒業後は引退し、筑波大大学院で体育



谷口守 教授(シス情系)

「父親との仲が悪く、実家のある大阪市から遠い大学に進学したかった」からと笑う。だが、コーチや母に引き留められ、ASを続けることになった。ところが、筑波大にはASチームがなく、練習のために毎週大阪に戻るために、往復の新幹線の中でも振り付けの確認や大学の勉強を怠らなかつた。4年間で体が疲弊したこともあり、大学卒業後は引退し、筑波大大学院で体育

一方、学生の指導にも力を入れ、優秀な学生の研究成果は積極的に学会の表彰制度などに推薦した。これまでの15年間で、主宰する近未来計画学研究室の学生が127件の表彰を受けたという。退職後も都市・交通計画分野に携わり、社会貢献したいと考えている。筑波大生に向けては「筑波大生は非常に力がある。内にも自信を持ってほしい」と呼びかけた。

もっと自信を持って

退職後も都市・交通計画分野に携わり、社会貢献したいと考えている。筑波大生に向けては「筑波大生は非常に力がある。内にも自信を持ってほしい」と呼びかけた。

記者の声



王生奏太

【1、10、11面参照】大学生の不信招いた突然の周知 対話する機会を増やすべきだ

「1、10、11面参照」大学生の不信招いた突然の周知。対話する機会を増やすべきだ。利用料(月)1万9410円、エアコンは別の自室よりかなり手狭になった。炊事場やトイレ、シャワーもコミュニティリーダーとして継続入居するつもりだった。だから、大学が昨年12月、来年度からの大幅値上げを、教育情報システム「TWINNS」の掲示板でいきなり告知したことが多く、平砂に住んでいる

説明不足や一方的な決定に対する不満の声が上がった。大学側は先月の説明会で、学生宿舎は借主の保護を定めた借地借家法の対象外で、事前通知の必要はないとの見解を示した。法的にはそうだとはいえ、学生生活の考え方にはないか。学生生活課によると、今回の値上げの主な理由は物価上昇に伴う維持管理費の高騰だ。昨年度から学生宿舎の財政収支が急激に悪化し、値上げなしでは今年、年間約4億円の赤字が出る見通しだったという。だが、それは学生への周知遅れの理由にはならない。コミュニティリーダー募集などの際に情報を

筑波時評

性格診断タイプ分けをうのみにせず 深い人間理解を心がける

近年、いわゆる「MBTI」と呼ばれる性格診断が流行している。無料のオンライン上のアンケートに答えることで、本人の性格が16タイプに分類される。MBTI(大塚)や「ENFP(運動家型)」などアルファベット4文字で表される。この4文字は「外向(E)」「内向(I)」「直観(N)」「観察(S)」「思考(T)」「感情(F)」「判断(J)」「探索(P)」という四つの対立軸から構成されている。友人や恋人との相性を見定めるのに使ったという「 Myers-Briggs Type Indicator」と呼ばれる性格検査の略称である。この検査は、同様の16タイプの分類結果が得られるもの、それは本人による性格診断を目的としたものではなく、資格を持つ専門家の支援を受けながら自己理解や自己成長を行うための検査として利用される。16 personalitiesはMBTIを参考に独自に作成されたものであるが、学術研究を基盤としておらず、分類基準も公開されていないことなどから、妥当性の検証が十分になされていないことは指摘しておく必要がある。

この性格診断が人々の関心を引き付けている要因の一つとして、16タイプに分類するという「わかりやすさ」がある。本来人は自分のことを知りたいという欲求を持っており、この分類

反射鏡

クマ問題はどう思う？

全国で昨年、市街地などへのクマの出没が相次ぎ、人身被害も多発したことは、人間と野生動物との距離や共存の在り方を改めて社会に問いかけた。筑波大生はこの問題をどのように捉えているのか。石の広場周辺で聞いた。(望月祐那比較文化学類1年、飯野歩1類1年、大成夏生2同1年)

【1類1年・女性】 なるべく自分としては遠い実家がある長野県ではクマ被害が多く、身近な脅威に感じている。クマの生態について調べていくと良いと思う。【2類3年・女性】 エンス3年。女性。山から下りてこないようにするための具体策を。知床の山を昨年、散策した。その数日後に同じ山でクマを撃つことができた。人間がクマを撃つことが、恐怖を覚えた。人間の



イラスト=小川優羽(人文学類1年)

冬の楽しみ

立春(今年は2月4日)が過ぎ、梅の花だよりも各地から届き始めた。自転車移動が基本の筑波大生にとって、冷たく乾いた季節風「筑波おろし」は大敵で、本格的な春の訪れが待ち遠しい。それでも、冬だからこそ楽しむ楽しみもあったはず。この冬をどう過ごしたのか。中央図書館前で聞いた。(松尾有姫比較文化学類2年、結城希国際総合学類3年、飯野歩1類1年、大成夏生2同1年)

【医学P後期3年・女性】 餅など、さまざまな方法で焼きた餅を焼くのが好き。【物理1年・男性】 クマに対して抱いていた可憐という印象が恐怖心へと変わった。人間への被害を防ぐため、絶滅しない程度に駆除は必要だ。自分には無関係だと思いがちだが、社会全体で、なぜこのクマ問題がよく報道されているのか、被書が起きている日本への渡航を控えること、必要だと感じている。【理学6年・男性】 登山が趣味で、クマの危険性は認識していた。今まではクマ鈴をつけるなどの対策を取ったうえで登山をしてきたが、最近は登山を避けている。【化学3年・女性】 地元の高玉県は住宅街で、茨城でもクマの話が聞かないので、遠い地域の問題だと感じる。人の命の方が大切なので、駆除について賛成だ。昨年の出沒多発はクマの食料不足が原因だと思ってる。山の環境を戻すことが重要だろう。【エンス1年・男性】 秋田県出身なので、クマの出沒は身近な問題だ。秋田でのクマ被害のニュースを聞くとき家族が心配になる。人の命を守るためには、駆除は仕方ない。気候変動もクマの餌不足に影響しているのではないかと人間もエネルギーや資源の無駄遣いを減らしていくべきだ。

最初に購入したのがこたつだ。首までこたつの中に入れて暖を取っており、買って良かったと思う。【環境P前期2年・女性】 毎年1月にイチゴ狩りをしており、今年は栃木県へ行った。イチゴを取ってその場で食べられるのがいい。昨冬に茨城県石岡市で食べた「いばらキス」という少し酸味のあるイチゴがおいしかった。来年の冬もまた石岡市に行きたい。【資源3年・男性】 冬は週に2回ほど鍋を食べている。特に寄せ鍋が好きで、白菜やニンジン、肉、豆腐や揚げ、うどんを入れる。最後はご飯と卵を加えて雑炊にして食べるのがお決まりだ。【心理4年・男性】 実家は福島県いわき市だが、つくばの方が内陸のため冷える。だからこそ、温かい鍋とホットワインも楽しみたい。【心理2年・女性】 冬は寒いだけで嫌いだと思っていたが、つくばに来てから少し好きになった。空気が澄んでいて思い切り深呼吸をすると気持ちがいいし、夜空の星や遠くの景色がよく見える。冬の筑波山からは富士山も見える。今年の元日、初日の出の代りに筑波山から見た初日の入りも綺麗だった。【人文P後期2年・男性】 中国から留学しているが、つくばの寒さはつらい。地元より風が強く気温が低いからだ。そのため、室内で読書をしていることが多い。中国では冬に辛い火鍋を食べることが楽しかった。【心理P後期2年・男性】 つくばは風が強いので、実家がある神奈川県より寒く感じる。年末は帰省し自分では作らない鍋を家族と共に食べた。帰省時、地元の友人たちと遊んだことが一番楽しかった。



イラスト=小川優羽(人文学類1年)



千島雄太

准教授 (教育心理学)

人間系・准教授。筑波大学院人間総合科学研究科心理学専攻修士。博士(心理学)。日本学術振興会特別研究員などを歴任。2022年より現職。

津田が女子単複2冠 ダブルスは吉田とペア

室内インカレ



賞状とトロフィーを手に優勝を喜ぶ津田(右)と吉田=本人提供

全日本学生室内テニス選手権(室内インカレ)が昨年12月7〜14日に有明テニスの森公園(東京都江東区)で行われ、津田梨央(体専1年)が女子シングルスで優勝した。津田は吉田琴美(同2年)と組んだ同ダブルスでも優勝し、単複2冠となった。筑波女子選手の単複同時優勝は2023年の吉本菜月(同4年)以来2人目の快挙だ。(松尾有姫II比較文化学類2年)

テニス

これで勢いに乗った津田は、ラウンドで相手を翻弄して第2セットも6-1で奪い、優勝を決めた。女子ダブルス決勝はシングルス決勝終了から約1時間半後に始まった。筑波大ペアは松村と長谷川菜香の亜細亜大ペアと対戦。昨年9月の関東大学リーグでは敗れていた相手だった。「先輩として引く張れる不安だった」という吉田だが、第1セット1ゲーム目のファーストサーブを全て決めた。津田が相手のリターンをボレーする連発プレーでこのゲームをキープすると、そのまま6-0で第1セットを奪った。

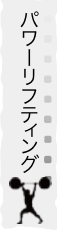
第2セットは相手ペアもボレーなどで好プレーを見せ、3-3と並んだ。だが、第8ゲームで相手サーブのブレイクに成功すると、第9ゲームも奪って6-3とし、優勝を決めた。単複2冠の津田は「夏のインカレに続き、室内も優勝できて自信になった。吉田さんのプレーに安心感があり、ダブルスはのびのびと戦えた」と振り返る。

一方、前年の室内インカレ女子ダブルスで準々決勝敗退だった吉田は「1年生だった前は緊張で萎縮し、悔しい思いをした。今回は自分のプレーができた」と初優勝を喜んだ。

アジアカップ種目別ベンチプレスで銀

教育推進課 安倍課長

教育推進課の安倍英紀課長(48)が、トルコ・イスタンブールで昨年12月に開かれたパワリフティングのアジア大会「アジアアマスターズ&オープン・クラシック」で銀メダルを獲得した。



パワリフティングは、持ち上げたバーベルの重量を競うスポーツ。バーベルを肩に担ぎ、規定の深さまでしゃがんで立ち上がるスクワットベンチ台に寝てバーベルを胸まで下ろしてから押し上げるベンチプレス。床においてあるバーベルを直立姿勢まで引き上げ、62.5kgに挑戦した最初の試技に失敗。「普段なら上げられる重さだ」と気持ちを切り替えて挑んだ2度目の試技で成功させた。

安倍さんは女子63kg級マスタース1(40〜49歳の部)に出場し、種目別ベンチプレスが62.5kgで5位、合計72.5kgで総合4位となった。ベンチプレスでは、設置されたベンチ台に歪みがあるのを直立姿勢まで引き上げ、デッドリフトの3種目がある。



メダルを首にかけ笑顔を見せる安倍さん

現在は、専門ジムのパワーハウスつくば(つくば)市谷田部で週に4回、3時間程度練習している。教育推進課の業務が長引き、練習時間が十分に取れない日もあるが、練習内容に優先順位をつけるなどして競技と両立させている。高松市総合体育館(高松市)で先月開催された全日本ベンチプレス選手権のエキップ部門63kg級マスタース1で優勝し、5月にポーランドで開催される世界大会への出場を決めた。エキップ部門は持ち上げる力を高める装備を着用して競技を行う。「自己ベストを更新して6位以内に入りたい。年齢や環境で夢を諦めず、挑戦を続ける」と意気込んだ。

箱根駅伝 川崎1区で区間新相当

16キロ地点で一時先頭に

【東京都港区で吉田花II日本語・日本文化学類1年、川畑悠成II知識情報・図書学類2年】第102回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が1月2、3日に開催された。川畑(体専3年)が関東学生連合(関学連)の一員として往路1区(21・3km)に出場し、従来の区間記録を5秒上回る1時間0分38秒で区間3位相当となる好走を見せた。関学連はオープン参加のため参考記録となる。

陸上



筑波大は昨年10月の予選会で16位となり、6年ぶりに本戦出場を逃した。しかし、川畑は予選会の個人記録で全体19位、日本人10位となり、関学連のメンバー(前(東京都千代田区)。17



1区でトップ争いを演じた川畑(1月2日、東京都港区で) = 川畑悠成撮影

川畑は前半10キロをトラックの1万1千の自己記録より9秒早い28分23秒で走り、15・2キロ地点(東京都大田区蒲田)はトップと5秒差の2位で通過した。15キロ以降は、更にスピードを上げ、集団を引っ張るという想定通りのレース展開ができたという。川畑は「16キロ付近で家族が応援に来てくれることに気がついた。自分の名前を呼ぶ声が聞こえて励みになった。家族に先頭を走る姿を見せることができてうれしい。第三者の視点から見てもかっこいい走りが見えた」と振り返る。

川畑が本戦に向けた調整を始めたのは、予選会後の10月末。まずは、トラックでの1万キロ走やスピード練習、大学周辺を20キロ程度ジョギングするなど基礎練習を重ねた。1区を走ることに決まった12月中旬からは、前年の箱根駅伝で3区を走った小川洋生(同4年)にコースの特徴やレース展開のアドバイスを聞くなどし、箱根駅伝で走るイメージを固めていった。

大会を終えて川畑は「区間新相当のタイムを出せる」とは思っておらず驚いた。先頭でレースを引っ張る経験ができたことは、大きな自信になった。次回の予選会では日本人トップの記録でチームの順位を底上げし、筑波大として箱根駅伝に出場したい」と今後の抱負を語った。

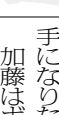
関学連は往路を5時間32分2秒、復路を5時間25分33秒で走り、総合は16位相応だった。

蹴球部員5人が加入会見

「チーム象徴する選手に」

サッカーのJリーグクラブ入団が決定した筑波大学蹴球部員の合同記者会見が昨年12月19日に大会会館で開かれた。安藤寿岐(体専4年) IIJ2サガン鳥栖、加藤玄(同) II当時J1名古屋ランパス・現J2RB大宮アルディージャ、佐藤留星(同) IIJ1浦和レッズ、諏訪幸成(同) IIJ1横浜F・マリノス、山崎太新(同) IIJ2大分トリニータの加入選手5人と小井土正亮監督(体育系・准教授)が登場した。(山本貴世II国際総合学類3年、6面に関連特集、12面に写真)

サッカー



手になりたい」と話した。加藤はボールの扱いや的確なパス回しを評価されているMF。大学進学まで所属していた地元グラウンドに戻る形でプロデビューし、今季は公式戦に10試合出場した。「思うような結果は出せなかったが、来季こそは自分の価値を証明したい」と意気込んだ。

190センチの恵まれた体格と高い身体能力が持ち味のGK佐藤は、昨年と今季の関東大学リーグでパス

筑波大学 出版会 新刊・近刊案内

ストレスマネジメント ー理論と実践ー

水上勝義・辻大士 著

新しい量子力学入門

小泉裕康 著

最新 精子学

久慈 編集
稀葉一男 監修 / 伊川正人・吉田学
直昭・種村健太郎

量子力学誕生100年を機に、これまでに発展・蓄積された量子力学に関する知識を蒸留し、初学者を念頭に書かれた現代的な入門書。(下巻：7月頃刊行予定)

生物学、水・蓄産学、農学、医学など「精子」に関する知識を分野横断的に網羅した、執筆者総勢83名からなる唯一無二の解説書。

9年ぶりの制覇 国士館大に快勝



金メダルを首にかけインカレの優勝を喜ぶ選手ら=蹴球部提供

45年ぶりに関東と2冠

全日本大学選手権(インカレ)の決勝が昨年12月27日、宇都宮市のホンダヒート・グリーンスタジアムで行われた。筑波大は国士館大を3-0で破り、9年ぶり10回目の優勝を果たした。前月には関東大学リーグでも優勝しており、2冠達成は45年ぶりの快挙だ。個人ではMF大谷湊斗(体専1年)が最優秀選手(MVP)に選ばれた。(望月祐那II比較文化学類1年)

サッカー

インカレの決勝ラウンド(12月13・27日)では、4チームずつ4組に分かれて総当たりするグループステージの後、各組の上位2チームがトーナメントで競うフックアウトステージに進出する。

筑波大はAグループを2勝1敗で2位通過した。第3節で阪南大に1-2と敗れたが、チームを引き締め一戦となった。

フックアウトステージ1回戦では、Cグループを1位通過した大阪体育大に1-0で勝利した。次の準決勝では日本体育大と対戦。前半10分に、こぼれ球をMF清水大翔(同2年)が押し込んで先制するなど3-0で快勝した。

そして迎えた決勝は、今季の関東大学リーグ2位の国士館大と対戦した。前半の立ち上がりは国士館大の積極的な攻撃に押し込まれる展開になった。同9分にFW小林俊英(同3年)がシュートを放つも相手GKに阻まれた。同33分にはGK佐藤瑠星(同4年)のJ1浦和レッズ内定が相手シュートを好セーブするなど、何度も相手の攻撃を跳ね返し、前半を0-0で終えた。

後半は筑波大が攻勢に転じ、同24分にはDF布施克真(同1年)が前線にクロスパスを出した。これに反応した大谷が相手守備陣をかきわけてゴールを決め、先制した。更に同31分、MF矢田龍之介(同)の右コーナーキックをFW山下景司(同)が頭で合わせて2-0とした。

そして同42分、こぼれたボールをMF篠田翼(同3年)がワンタッチで上げる。追った大谷がGKをうまくかわし、この日2点目のゴールを決めた。そのまま

国士館大に点を許さず、3-0で勝利した。

小井土亮監督(体育系准教授)はグループステージ第3節の敗戦で緊張感がより高まった。苦しい展開の中でも、自分たちが崩れずに戦えたことが決勝の勝因だ。新チームでも部員一丸となり、連覇に向けて「トライしたい」と語った。

主将のMF山崎太新(同4年)は「優勝が決まった瞬間は安堵と喜びが込み上りた。主将として、苦しい時こそ自分が走って戦う姿を見せることが大切にしてほしい」と振り返った。

1年生ながらMVPを獲得した大谷は「けがでプレーできない時期もあったので、報われたと感じた。来季はインカレ、関東大学リーグ、総理大臣杯の3冠を目標に今後もチームのために全力で戦いたい」と意気込んだ。

男女混合団体で初代王座 チーム力の強さ見せ

柔道

「全日本学生男女混合団体」の第1回大会が昨年12月20、21日に香陵アリーナ(静岡県沼津市)で開催された。筑波大は主力メンバーをそろえて挑み、準決勝で国士館大、決勝で東海大を破って初代王者に輝いた。(横山心咲II比較文化学類3年)

育大と対戦。4-1で勝ち上がる。3回戦では早稲田大に4-0と完勝した。準決勝の国士館大との対戦は、2-1となった第5分23秒の戦いに決着をつけ、4-2でチームを決勝に導いた。

決勝の東海大戦は、第1試合の女子70kg級以下に白金未桜(体専2年)が登場。裏技で技ありを奪って勝利した。続く第6試合は男子90kg級以下だったが、豪快に一本を奪った。

第2試合の女子57kg級以下にはトレス・カミラ(同2年)が出場。開始24秒に

内股で鮮やかに一本勝ちした。第3試合は松下颯太郎(3年)が攻め続け、相手の反則負けで勝利した。

あと1勝すれば優勝となる第4試合、女子70kg級以下で白金が再び登場。試合はGSに突入したが、白金の積極性が上回った。相手に3回目の指導が与えられて4勝を先取り、筑波大の優勝が決まった。

岡田弘隆監督(体育系准教授)は「各試合引き分けありの男女別団体戦に慣れていたが、引き分けなしの混合団体も面白い。選手たちには強い方が勝つと伝えている。楽しく戦わせてもらった」と語った。

田中は「忍耐強く戦え、自分自身の成長を感じた。」



初優勝に輝き記念撮影をする部員ら=柔道部提供

女子5年ぶり3位

「自分らしいプレーできた」

全日本大学選手権(インカレ)が昨年11月29日、12月14日、大田区総合体育館(東京都大田区)などで開催された。筑波大女子は準決勝で惜敗したが、早稲田大との3位決定戦を制した。3位入賞は5年ぶり。(惣田堅斗)

バスケット

白鷲大との対戦となった準決勝は、第3クォーターまで筑波大が56-54とリードする展開となったが、第4クォーターの残り5分ごろからスリーポイント



チームそろってメダルを手に笑顔を見せる=女子バスケットボール部提供

シュートを3連続で決められて60-68とリードを許した。そのまま流れを取り戻せず、63-68で敗れた。

主将の朝比奈あずさ(体専4年)は第3クォーターまでうまくいったが、第4クォーターで相手に流れが傾いた。自分のシュートが決まっていれば、その流れを変えられたと思うと、悔しい」と振り返った。

スポーツの顔

ラグビー

強豪校が集う関東大学対抗戦Aグループで、1年生ながら今季のトライ王に輝いた。チームもグループ2位となり、優勝した2012年以来的の好成績を取った。166kg、74cmの小柄ながら、50歳を5.9秒で走る俊足が持ち味だ。

ポジションはウィング(WTB)。トライを狙う攻撃の要で、敵の隙を突く判断力と、深く攻め入るためのスピード、スタミナが求められる。

父と三つ上の兄がラグビーをしていた影響で、小学校1年時に競技を始めた。中学までは父がコーチを務める大分のクラブチームで週末に練習を重ねてきた。

高校は地元の大分県を離れ、古豪の佐賀工業高校(佐賀市)に進学。父の出身校で、全国の舞台で戦いたいという気持ちが決め手になったという。

筑波大への進学を考え、でも3位になった。高校3年時には高校日本代表に選ばれ、海外遠征を通じた。WTBは走り続けなければならないポジションで、スタミナ不足に悩まされた。他の選手

改め、米を中心に1日5食を摂るようにした。

高校3年の秋に試合で左足首を骨折したこともあり、春季は試合に出られなかったが、秋の対抗戦では7試合全てに出場。1試合平均77分間出場し、11トライを決めた。

トライ王獲得については「獲れるとは思っていなかった。ラストパスをもらったトライがほとんどだったが、純粹にうれしかった」と話す。

今季の対抗戦で2位となった筑波大は、来季の関東大学春季大会で強豪校との対戦が組まれる。掲げる目標は全勝だ。個人でも6月に決まるU20(20歳以下)日本代表入りを目指す。「体力面での課題はまだ克服できていない。練習に打ち込み、身長が小さくても不利を感じないように頑張りたい」と抱負を語った。(川畑修成II知識情報・図書館学類2年)



関東大学対抗戦 トライ王 内田慎之甫(体専1年)

俊足生かしU20入り目指す

足首や股関節の骨折に度々悩まされたものの、持ち前の足の速さから、2年時にはチームの主力として活躍。その年の全国高校総体(インターハイ)7人制で優勝、全国高校ラグビー(通称花園)の試合時間の長さから、かきずこなす。食生活も

たのは、同じWTBで筑波大出身の福岡堅樹さん(平成28年度情報科学類卒)に憧れたから。他大より自由にプレーする様子にも引かれた。

入部後、特に苦勞したのが試合時間の長さだ。そこで、ウェイトトレーニングに力を入れた。チームの練習以外にも個人でジムに通い、スクワットや懸垂を毎日欠かさずこなす。食生活も

説明会 質疑応答含め4時間超

副学長 周知遅れ謝罪

【1面参照】筑波大は来年度からの宿舎利用料値上げに関する学生説明会を1月20日、1H棟で初開催した。大学側からは千葉親文副学長(学生担当)ら5人が出席。千葉副学長は、物価高に伴い、値上げしないと年間約4億円の赤字が生じる見通しを示し、理解を求めた。一方、学生への告知が12月10日と遅れたことについて謝罪し、「経済的問題があれば、利用料の安い棟に優先的に案内するので個別に相談を」と呼びかけた。学生側の参加者は留学生を含む108人で、値上げの延期を求める声も相次ぎ、説明会は4時間超の長丁場となった。

(山本ひより、川上真生、結城希、壬生奏太、川畑悠成、飯野歩、大成夏生)

今回の値上げでは、最も(方)の場合、宿舎利用料から2万8040円(エアも利用者の多い一般改修は現行の月1万9410円(エアコン未設置)から8600円(エアコン未設置)となる。)

(現行と来年度以降の宿舎利用料) (単位:円)

宿舎区分	現行	2026年度以降		
	宿舎利用料	宿舎利用料	上げ幅	
一般宿舎(単身用)	一般(未改修)	15380	22590	7210
	一般(改修)春日地区以外	19410	28040	8630
	一般(改修)春日地区	19615	29920	10305
	追越25~27号棟	31170	39810	8640
	追越27号棟(新)	25955	39810	13855
	追越28号棟	27900	57240	29340
	一の矢10~16号棟(未改修)	23670	44870	21200
	春日3号棟	23711	40290	16579
	一の矢17~19号棟	33826	43290	9464
	一の矢36・37号棟	29785	42350	12565
一般宿舎(世帯用)	春日3号棟(夫婦室)	29177	43550	14373
	春日3号棟(家族室)	33417	55720	22303
	SHO(短期留学生・シニア)			
SHO(短期留学生・シニア)	一の矢6・8号棟	23800	33040	9240
	一の矢31~33号棟	44000	92750	48750
	一の矢34・35号棟	36100	51980	15880
	一の矢38号棟	30600	48410	17810
グローバルヴィレッジ	35800	46260	10460	

宿舎学生の声

本紙は、宿舎に居住する学生計10人に、今回の値上げについて意見を聞いた。値上げ自体はやむを得ないという意見が大勢だった。値上げの理由や今後の対応、周知方法について不満が寄せられた。

【1類1年・男性・平砂】来年度も継続入居する。値上げの発表が遅く、新居探しの時間がないと考えた。だが、値上げの負担感が大きい。できれば、段階的な値上げにしてほしい。

【地球1年・男性・平砂】引越しが大変なので、来年度以降も継続する。値上げの可能性がある段階から告知してほしい。授業料値上げでも、同じ進め方をされるのは困る。

【人文2年・女性・平砂】値上げ後の宿舎利用料は環境に見合わず割高だ。宿舎と同価格で、住環境が良いアパートへ引越す。

【比文1年・女性・平砂】宿舎の光熱費は安いのが、部屋の狭さや値上げ幅を考えると納得できない。昨年は案内が遅く、見逃して

宿舎料 値上げ を追う

千葉副学長の説明によれば、宿舎は学生の利用料で運営し、収支の均衡を目指してきた。しかし、物価高や維持管理費などの上昇に伴い、昨年度から収支が急激に悪化し、今年度は約1億円の赤字という。このままでは、来年度以降は赤字幅が年間約4億円に拡大することが見込まれると示した。



説明会で質疑応答を行う学生と千葉副学長(1月20日、1H棟) = 壬生奏太撮影

宿舎の一般入居者が継続を希望するかどうかの調査は例年、10月ごろに実施されている。今年度は10月下旬から11月6日までコミュニケーションリーダーとして入居の継続を希望するかの調査が行われ、その際に値上げの見込みについても示されていた。しかし、一般入居者に伝わったのは値上げ決定後になった。これについて千葉副学長は「大学の周知が不十分だった」と謝罪した。宿舎は借主の保護を定めた借地借家法の対象外で、事前通知の義務はないが、もう少し早く周知できればよかったとの認識を示した。

値上げ経緯 大学側に聞く

本紙は宿舎利用料の値上げ決定の経緯や学生との対話の進め方、宿舎の位置付けなどについて千葉親文副学長(学生担当)、中澤秋夫学生部長らにインタビューした。学生への周知遅れの理由については「学内の議論に時間がかかったため」と説明した。今後は情報を速やかに周知し、新入生を宿舎に呼び込むキャンペーンを展開する方針という。

(聞き手 結城希、壬生奏太、大成夏生)

その後、学生側からは全学学類・専門学群・総合学域代表者会議(全代会)が値上げの1年延期を求めたことに対する質問が出たが、千葉副学長は「延期はしない」と明言した。

この他、学生とのコミュニケーション不足を問題視する声や「学生を軽んじている」という批判もあつた。度々家賃は同じため、継続入居する。値上げは理解できず、大学の説明が遅かった。値上げが発表された教育情報システム「TWINNS」での掲示も分かりにくく、住人には個別かつ早期に通知すべきだった。

【地球1年・男性・平砂】引越しが大変なので、来年度以降も継続する。値上げの可能性がある段階から告知してほしい。授業料値上げでも、同じ進め方をされるのは困る。

【人文2年・女性・平砂】値上げ後の宿舎利用料は環境に見合わず割高だ。宿舎と同価格で、住環境が良いアパートへ引越す。

【比文1年・女性・平砂】宿舎の光熱費は安いのが、部屋の狭さや値上げ幅を考えると納得できない。昨年は案内が遅く、見逃して

判が相次いだ。これに対し千葉副学長は「全代会の代表と学生担当副学長、学生部長らに月に2回程度顔を合わせたい」と述べた。

【1類1年・男性・グロー】バルヴィレッジ(グロービ)グロビは2年契約で来年も、まずは耳を傾ける姿勢が大切ではないか。

【社文3年・女性・一の矢】3年間宿舎に住んでいるが、値上げを知り、アパートに引越すことにした。継続入居の抽選が実施されるが、昨年は10月ごろに継続入居の抽選が実施されるが、昨年は案内が遅く、見逃して

【心理3年・女性・一の矢】値上げを受け、引越すことにした。公表が12月で、推薦入試合格発表の時期と重なった。これでは、物件探しも合格者も重なり、選択肢が狭まってしまつた。

【心理3年・女性・一の矢】値上げを受け、引越すことにした。公表が12月で、推薦入試合格発表の時期と重なった。これでは、物件探しも合格者も重なり、選択肢が狭まってしまつた。

【地球1年・男性・平砂】引越しが大変なので、来年度以降も継続する。値上げの可能性がある段階から告知してほしい。授業料値上げでも、同じ進め方をされるのは困る。

【地球1年・男性・平砂】引越しが大変なので、来年度以降も継続する。値上げの可能性がある段階から告知してほしい。授業料値上げでも、同じ進め方をされるのは困る。

【地球1年・男性・平砂】引越しが大変なので、来年度以降も継続する。値上げの可能性がある段階から告知してほしい。授業料値上げでも、同じ進め方をされるのは困る。



ボナ大学 (ドイツ) 金田慧真

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

ボナ大学 (ドイツ) 金田慧真

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別



ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

ドイツで感じた平等と差別

不動産会社に聞く

キャンパス周辺「物件の動き早い」

本紙は筑波キャンパス周辺(付帯)で4万円台が中心だ。周辺の賃貸物件を斡旋している不動産業者に、宿舎利用料値上げ発表後の動向を取材した。どの業者も学生からの問い合わせが例年より増えたという、空室が減ったという業者もいた。

桂不動産(本社・つくば市研究学園)の筑波大学前支店によれば、筑波キャンパス周辺の学生向け賃貸物件の家賃相場は、ワンルームのアパート・マンション(バス・トイレ、キッチン

多かった。同時期に、メールによる学生からの問い合わせも約80件あった。支店からは「物件の動きが例年より早く、3月下旬まで紹介できる物件が持続的にあるか分からない。空室数は例年の半数以下」と聞いたという。

他大の宿舎事情は

筑波技術大と九州大

他の国立大の宿舎はどうか。筑波技術大と九州大に個室の宿舎の面積や共益費を含む利用料、築年数、現在の入居率を聞いた。

筑波技術大の学生宿舎は10平方メートル、築17年(35年)。天久保キャンパスと春日キャンパスの2カ所所計347戸。利用料は天久保が月1万7000円または1万7500円(個室約9平方メートル、築17年36年)。入居率は約80%。春日は月2万1000円または2万4500円(個室約9平方メートル、築17年36年)。九州大の学生宿舎は合計1318戸。このうちメインキャンパスである伊都キャンパスに設置された学

生宿舎の一つ、伊都協奏館(17平方メートル、築11年)は利用料が月額2万1000円(水道代・電気代・インターネット代別、エアコン・ユニットバス付き)。入居率は約90%。今後の値上げの有無について言及はなかった。

筑波大の一般改修棟(春日地区以外、約10平方メートル)は、2009年14年改修)は今年4月から月額2万8040円(電気代の基本料は大学負担、エアコン付き)となる。入居率は約70%。

自身で活動経験を発表し、エンジンでなければならぬ」と訴えた。

初日の午後2時目は、気候変動、人工知能(AI)、先端技術、ヘルスケアなど七つのテーマごとに分かれ、学生が自らの研究について発表した。マレーシアと筑波大の教職員がペアを組んで、各セッションの進行役を務めた。

2日目は懇親会(カルチャーナイト)も開かれ、日本側は餅つきパフォーマンスや、筑波大邦楽部による琴や三味線の演奏などを行った。マレーシア側も民族衣装を身に付けた学生が現地のダンスや歌を披露し、両国の交流が更に深まった。

GSLS 日本で初開催

日マ学生が地球規模課題など議論



学生フォーラムで議論する全大会の吉川議長(右)ら(1月11日、2H棟)

「未来のグローバルリーダーの育成」を総合テーマに、マレーシアの国立マラヤ大と筑波大が共催したグローバル・リーダーシップ・サミット(GSLS)が地球規模の課題などについて

1月9〜11日、つくば国際会議場(つくば市竹園)と筑波大で開かれた。マレーシアと日本から学生159人(筑波大は71人)、教職員30人(同14人)が参加し、地球規模の課題などについて

「大学は平和と持続性のエンジンでなければならぬ」と訴えた。

初日の午後2時目は、気候変動、人工知能(AI)、先端技術、ヘルスケアなど七つのテーマごとに分かれ、学生が自らの研究について発表した。マレーシアと筑波大の教職員がペアを組んで、各セッションの進行役を務めた。

2日目は懇親会(カルチャーナイト)も開かれ、日本側は餅つきパフォーマンスや、筑波大邦楽部による琴や三味線の演奏などを行った。マレーシア側も民族衣装を身に付けた学生が現地のダンスや歌を披露し、両国の交流が更に深まった。

3日目は、パネルディスカッション「アベさん最終回」による4コマ漫画「Go!!!博士号」は今年で終わりを告げ、ナツさん(地球01)博士号」が始まりです。

追跡プロジェクト

筑波大を中心に超小型人工衛星「TSUKU TO」を製作中の「結」プロジェクトだが、試験機の完成が難航している。昨年3月に機体や機体内部の回路が宇宙環境の温度に耐えられるかを試験したところ、電源回路に不備が見つかった。このため、再設計に時間がかかったことなどが難航の主な要因だ。

3度目の打ち上げ延期

基板の修正急ぐ

これにより、開発スケジュールが見直され、今年春の打ち上げ予定も来年に延期された。広報・渉外チームの黒河一真さん(工学2年)は「打

るプロジェクトマネージャーになった今泉志常さん(同3年)は「自分たちが作ったものを宇宙で動かすという思いがやる気につながる」と話す。「回路の設計はうまくできている。あとは回路を載せる基板の設計を修正し、温度試験を慎重に進めたい」と今後の開発を展望した。

「結」のメンバーは試験の失敗を乗り越え、完成に向けて開発に取り組んでいる。(青野心平II物理学類3年、写真も)



タリ総合研(1月28日、総合研棟Bで)

今年から開発を統括する「結」のメンバーは「打ち上げ前にはできるだけの試験をして、品質保証を徹底したい」と話した。

「結」のメンバーは試験の失敗を乗り越え、完成に向けて開発に取り組んでいる。(青野心平II物理学類3年、写真も)

漫画研究会

ファンタジー、コメディ、少女もの、恋愛もの、4コマ漫画……。漫画研究会のメンバーが得意とする分野はバラエティに富んでいる。

現在の部員は学群1年生から大学院生までの計15人。毎週月曜と水曜が活動日だ。午後6時過ぎから、文化系サークル会館の部室に集まり、それぞれが漫画制作に励んでいる。タブレット派もいれば、紙に手描き派もいる。

メンバー間でペンネームで呼び合うのが習慣だ。恋愛ものを描いている

「博士号」は今年で終わりを告げ、ナツさん(地球01)博士号」が始まりです。

仲間と一緒に制作意欲が湧くという会員たち。写真右がアベさん(1月12日、文化系サークル会館で)



仲間と一緒に制作意欲が湧くという会員たち。写真右がアベさん(1月12日、文化系サークル会館で)

代表の赤トンボさん(芸専2年)は「漫画自体は一人でも描けるが、会誌に作品を出すことで、人の目に触れる機会も増える。1年生から主力になれるし、学年を問わず初心者も大歓迎だ。漫画に興味がある人はぜひ参加してほしい」と話す。会員が増えることで会誌がより厚くなること、代表としての願いだ。(壬生奏太II地球学類2年、写真も)



アベさん(比文4年)による4コマ漫画「Go!!!博士号」は今年で終わりを告げ、ナツさん(地球01)博士号」が始まりです。

追跡プロジェクト

筑波大を中心に超小型人工衛星「TSUKU TO」を製作中の「結」プロジェクトだが、試験機の完成が難航している。昨年3月に機体や機体内部の回路が宇宙環境の温度に耐えられるかを試験したところ、電源回路に不備が見つかった。このため、再設計に時間がかかったことなどが難航の主な要因だ。

これにより、開発スケジュールが見直され、今年春の打ち上げ予定も来年に延期された。広報・渉外チームの黒河一真さん(工学2年)は「打

るプロジェクトマネージャーになった今泉志常さん(同3年)は「自分たちが作ったものを宇宙で動かすという思いがやる気につながる」と話す。「回路の設計はうまくできている。あとは回路を載せる基板の設計を修正し、温度試験を慎重に進めたい」と今後の開発を展望した。

「結」のメンバーは試験の失敗を乗り越え、完成に向けて開発に取り組んでいる。(青野心平II物理学類3年、写真も)

代表の赤トンボさん(芸専2年)は「漫画自体は一人でも描けるが、会誌に作品を出すことで、人の目に触れる機会も増える。1年生から主力になれるし、学年を問わず初心者も大歓迎だ。漫画に興味がある人はぜひ参加してほしい」と話す。会員が増えることで会誌がより厚くなること、代表としての願いだ。(壬生奏太II地球学類2年、写真も)

Who's Who?

茨城県芸術祭特賞受賞

成山功士郎 さん (芸術P前期2年)



制作した「捧ぐ肉」の前に立つ成山さん＝本人提供

今年度の茨城県芸術祭・美術展覧会の彫刻部門で応募44作品の頂点となる特賞を受賞した。受賞作「捧ぐ肉」は石こう製の裸婦像で、高さ2.5メートル(台座を含む)の大作だ。女性は左腕を頭の上に乗せ、左や斜め下に視線を向けている。審査員からは「量感豊かに表現した迫力ある力作」と評価された。

「神が好むだろう成熟した肉体をコンセプトに、古代ギリシャ彫刻の構造美と人体の緊張感を意識して制作したという。茨城県石岡市生まれ、つくば市育ち。幼い頃から図画工作が好きで、美術教員になろうと茨城大教育学部に進学。幅広く美術の基礎を学んだ。

大学3年時に、ブロンズ彫刻が専門の島岡教授のゼミに入った。「特殊な設備や、専門的な道具が必要で授業のみでは体得し難い彫刻は絵よりも教えることが難しい。铸造技術など専門的なことを学びたい」と考えたからだが、これが転機となった。島岡教授の指導を受けて制作に

それでも、「古代ギリシャ彫刻のような、かっこいいものをつくりたい」という思いが、日々の制作の支えになった。制作に没頭し、5日間大学に泊まり込んだこともあった。完成した作品は

「かっこいいもの作りたい」

24時間彫刻制作に没頭

左巻を握る男性の上半身像。難しい素材であるブロンズで理想的な人体を表現できた」と感じ、大学院進学を決めた。また、茨城大には美術専門の大学院はなく、地元で通いやすく、铸造設備もある筑波大学院に進んだ。「ほとんどの授業は実技で、自主制作の時間が多かった。自分で課題を設定して制作に取り組むことができて良かった」という。

昨春は1カ月間かけて欧州を訪れ、彫刻の原点であるギリシャ、ルネサンスが始まったイタリア、近現代で制作の中心地となったフランスの美術館や博物館を巡った。

理想的なプロポーションの裸像として作られた。「その神っぽさがかっこいいと思った」と語る。また、現地でより古い時代のブロンズの人物像も鑑賞した。そうした経験が、修了制作で、ブロンズの全身像彫刻に取り組みむことにつながった。「2000年以上もの時を超えた実物を現地で見て、後世に残るブロンズ作品の制作に意義があると感じました」と話す。こうして左腕を前に伸ばした男の全身像が完成し、3月には湯島聖堂(東京都文京区)で開催される筑波大学彫塑展に展示される。

これからも彫刻の制作を続け、美術史に残るような作品を生み出すことが夢だ。その実現に向け、春からは筑波大博士後期課程に進み、「かっこいいもの」を生み出すための技術を磨いていく。

(鈴木華二比較文化学類1年)

大学入学共通テスト実施



テストに臨む受験生ら(1月17日、第一エリアで)＝飯野歩撮影

1面へ

「本と喫茶サッフォー」



一般学生団体「SODA」が制作した小冊子が店頭で並ぶ(1月25日、つくば市天久保で)＝川上真生撮影

2面へ

明和電機 ライブと梱包箱展



ライブの様子を再現した展示を鑑賞する来場者ら(1月28日、アーツスペースで)＝大竹翔撮影

5面へ

Jリーグクラブに加入



加入先のユニフォームを着た選手らと小井土監督(昨年12月19日、大学会館で)＝山本貴世撮影

8面へ

編集後記

お正月の箱根駅伝取材をしました。筑波大からは川崎選手が1区で出走し、区間記録を上回る3位相当の見事な走りを見せました(8面)。川崎選手は昨年10月の予選会後、「睡眠をきちんと取り、体のケアに充てる時間を増やすこと」を心がけてきた」と話していました。今回の快走で「体のケア」の大切さが駅伝チームにも伝わったと思います▼「宿舎利用料の値上げも続報しました(1、4、10、11面)。宿舎居住者の話からは、値上げそのものより、説明の遅れを問

題視する学生が多いことが分かります。キャンパスライフに直結する宿舎問題を追いつけています▼今年度限りで定年退職する教授の方々に話を聞きました(3面)。皆さん、素晴らしい業績をお持ちで、充実した環境で学べていると、実感しました。筑波大を卒業するアスリートたちも取材しました(6、7面)。新天地での活躍を応援しています▼今号から編集部は代替わりしました。新体制となっても、これまでと変わらず、読者である筑波大生に有益な情報をお届けするつもりです。愛読をお願いします。情報・図書館学類2年)▼編集長 川畑悠成(比較文化学類1年)、大成夏生(第1類1年)

次号は

4月1日(水)

発行予定です

発行所 筑波大学印刷リフォーム ほか編集部員18人

学内総合

学内総合

学芸

スポーツ